

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
474	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Patterns of alcohol consumption and acute myocardial infarction: a case-crossover analysis. 飲酒パターンと急性心筋梗塞：ケースクロスオーバー解析	
執筆者	
Gerlich MG, Krämer A, Gmel G, Maggiorini M, Lüscher TF, Rickli H, Kleger GR, Rehm J.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Eur Addict Res. 2009;15(3):143-9	
キーワード	
心筋梗塞、アルコール消費量、ケースクロスオーバーデザイン	
<b>要 旨</b>	
<b>背景：</b> アルコール消費は冠動脈疾患発症との関連が知られているが、イベント前のアルコールの役割は深く検討されていない。本研究では大量飲酒がその後の急性心筋梗塞のリスクを増加させるが適量飲酒ではリスクを減少させるとの仮説を検証した。	
<b>方法：</b> 250例のスイスにおける心筋梗塞症例を、ケースクロスオーバーデザインで仮説について条件付きロジスティック回帰モデルで検証した。	
<b>結果：</b> イベント発生 12 時間前のアルコール消費量は心筋梗塞のリスクを有意に増加させた(オッズ比 3.1; 95%信頼区間 1.4-6.9)。心筋梗塞発症前の大量飲酒と適量飲酒による有意な影響は認めなかった。心筋梗塞の患者ではスイスの一般市民と比較して大量飲酒が多くみられた。	
<b>結論：</b> アルコール消費が心筋梗塞発症前のアルコール摂取が心筋梗塞の予防的効果を示すエビデンスは得られなかった。しかしアルコール消費は心筋梗塞のリスクを増加させた。	